

# 国道2号倉敷立体事業 ～新しい高梁川大橋の工事現場へ 行って来ました！Vol.1～

2018.10.03





現在、高梁川大橋（全長714m）では2車線の橋を4車線にする工事を行っています。  
 この橋を含む2.7kmを4車線化することで渋滞を緩和しようという事業が「倉敷立体事業」です。  
 高梁川の中にある橋脚はすでに完成していて、今はその上に架かる橋桁の工事を行っています。



橋桁の施工業者である(株)横河ブリッジの  
 柏木正彦さんに工事現場を案内して頂きました。  
 「橋桁」を見るのは初めてで色々びっくりする  
 ところがありましたが、今回はその中の  
**「2つのびっくりポイント」**について  
 紹介します！

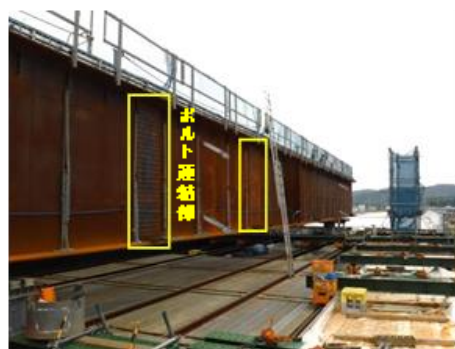
『びっくりポイント① 橋のつくりかた』

(1) 鋼材の組立

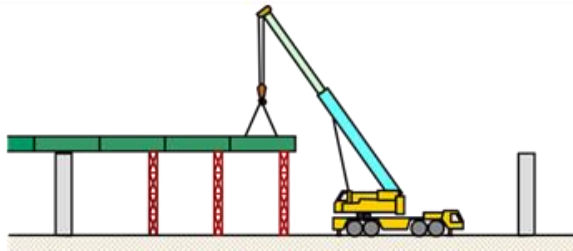
工場で製作した桁(最大12m)を車(トレーラー)で、  
 この現場に運んできます。  
 次に右の組み立て用に作られたスペースの上でボルト  
 でつなげていきます。

(2) ここからがこの現場の**最大のポイント！！**

川の上はどうやって橋を架けるのか…  
 と言っても、通常の工事方法が分からないので代表的  
 な方法も伺っています。



④ クレーン架設…桁を直接、橋脚に載せる方法（今回は、川の中なので採用できず。）



⑤ 台船架設…台船を作って、河川の中から橋脚に桁を載せる方法

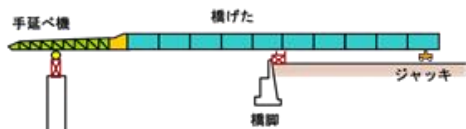
（今回は、下流に堰があるので採用できず。）

※堰とは…水を取るため、また、水深・流量の調節のため、川の途中や流出口などに設けて流水をせき止める構造物。



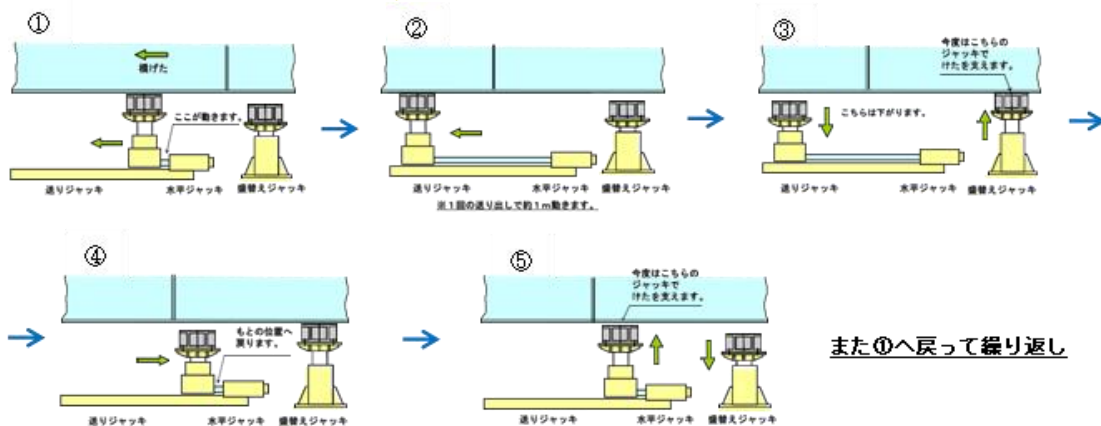
⑥ 送り出し架設…『今回の架設方法』

送り出し工法の特徴は、桁の先端に手延べ機を設置して橋脚へのガイドとして架け渡す工法です。クレーン架設できない条件で河川、鉄道、供用道路の上に橋桁を架設するときよく用いられる工法です。



（株）横河ブリッジ 柏木正彦さん

以下、手順を説明します！





(写真) この現場で使用している送りジャッキ  
(1回の送り出で、1m送り出せます。)



(写真) この現場で使用している盛替えジャッキ

### 『びっくりポイントの 錆びの 稽拵』

「えっ、錆びてるんですか？」と柏木さんへ何うと、実は特殊な材料※1 (安定錆※2なるものの効果) で出来ていて、コスト縮減(メンテナンス費や塗装費など)につながるのとこと。

この鋼材は、瀬戸内海沿岸の地域では海から1km以上離れた場所で使用が可能。ここの現場は5km離れているので使用OK。



※1 使用鋼材: **耐候性鋼材**

※2 安定錆...表面の茶褐色の錆。この錆により塗装をしなくても腐食が進まない。

送り出しによる工事は、9月の中旬で完了し、その後は現在の高さから拵を計画の位置まで降下させる作業になります。最大でなんと4mも降下させるとのこと。次回は、拵の降下作業についてレポートします! お楽しみに♪♪

玉島維持出張所 *Beautiful Wind*

